

# 台湾半導体発展方向と 科学技術政策

# 1.19 月

15:00 - 17:00

参加無料  
オンライン

世界的な半導体産業競争が激化する今日、台湾はグローバルファウンドリー産業のリーダーとして、かつてない機会と挑戦に直面しています。本講演では、米中技術競争や各国が積極的に推進する半導体自給化という国際情勢の中で、台湾半導体産業がいかに技術的優位性を維持し続け、充実した科学技術政策を通じて産業の転換とアップグレードを支援しているかについて深く掘り下げます。

講演者は、台湾半導体産業のグローバル戦略上の地位から出発し、先端プロセス技術の進化、ヘテロジニアス統合と先進パッケージング、化合物半導体などの今後の発展方向を分析するとともに、台湾政府が租税優遇措置、人材育成、産業用地計画などの政策手段を通じて、いかに競争力のある産業エコシステムを構築しているかを説明します。特にAIの波が世界を席巻する現在、台湾はAIチップの設計・製造において重要な役割を果たすだけでなく、AI技術を半導体プロセスの最適化、歩留まり向上、スマート製造などの側面に積極的に応用し、半導体とAIが相互に駆動する好循環を形成しています。

産業の急速な発展がもたらす人材不足という課題に対し、台湾政府と産業界は協力して多様な人材育成戦略を推進しています。国立陽明交通大学などのトップ大学における半導体学院の設立から、産学連携による実務訓練メカニズムの強化、さらには分野横断的な人材育成プログラムまで、台湾は完全な半導体人材サプライチェーンを構築しています。同時に、国際人材の招聘、外国人専門家の就労許可簡素化、そして日本などとの人材交流協力プログラムを通じて、台湾はより開放的で魅力的な国際人材環境の構築に努め、産業の長期的発展に向けた強固な基盤を築いています。

講演ではまた、地政学的リスクとサプライチェーン再編という背景の下で、台湾が日本や米国など価値観を共有する国々との産業協力をいかに強化しているか、特に材料技術、装置開発、次世代通信技術などの分野における相互補完と協働イノベーションの可能性についても探ります。本講演は、日台産業協力、半導体科学技術政策、AI応用開発、国際人材戦略、サプライチェーン構築に関心をお持ちの産官学各界の皆様に適しており、深い分析と議論を通じて、日台半導体産業協力の新たな契機を創出することを期待しています。



台湾 中華経済研究院 日本センター 主任

江 泰 槿 氏  
CHIANG, Taichin

現在は中華経済研究院日本センターのセンター長として勤務。同時に東京科学大学工学院特定准教授ならびに台湾オフィス主任を兼務し、台日間の学術連携において中心的な役割を果たしている。研究領域は循環型・持続可能な材料の開発応用、半導体産業技術を専門とする。学術面では国際ジャーナル論文、専門書、国際会議論文を合わせて50篇以上を発表し、H-index16という研究評価を得ている。

**申込方法 ▶** 二次元コードを読み込みフォームを入力してください。  
メールでのお申込みは氏名・所属・電話番号を [office@agi.or.jp](mailto:office@agi.or.jp) へ送信してください。

詳細はHPをご覧ください。

**申込期限 ▶ 1月16日(金)**

[www.agi.or.jp](http://www.agi.or.jp)

